

喜多方市議会決算特別委員会会議録

令和5年10月16日（月曜日）

【産業建設常任委員会所管分】

○五十嵐吉也委員長 次に、産業建設常任委員会所管分について行います。

ご質疑ございませんか。

遠藤吉正委員。

○遠藤吉正委員 それでは、私から質疑をさせていただきます。

これについては、先ほどの福祉施設等についても質疑させていただきましたが、先ほど市長のほうから福祉施設については市民の福祉だということでありまして、その内容は分かりましたが、それを踏まえて、今は産業建設ですので、今度は保養施設ということで、改めてお伺いします。

これもお話ししたように自主財源ということであります。特に、令和4年度の決算を見ますと、観光費が約5億4,000万円あるのですが、このうち約3割がこの保養施設に使われております。特に、先ほどお話ししましたように、令和4年度につきましては、原油高騰、物価高騰を含めて、いろいろな部分の中でもありますし、中期財政計画で約2,800万円の修繕等を上げていたのですけれども、結果的に400万円上積みになっているのですね。

ということになりますと、今後やはりさらなるそういった施設管理の経費が増えていくことは必然的に予想されるかと思いますので、これは令和元年に見直しをかけて、令和2年からの料金のほうの関係はありますけれども、実際にはあのときには変わっていないのですね。特に、蔵の湯等については、利用料金が夜間300円なのですが、入湯税150円引くと150円なのですよ。今後、それを含めて全体的にこの利用料金を見直しする時期ですね。先ほど少しお話ししましたが、この指定管理そのものが令和6年までなので、令和4年度の決算を踏まえて、これからもある程度議論をすべきかと思いますが、市長の答弁をお願いします。

○五十嵐吉也委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） 保養施設、蔵の湯、いいでのゆ、ふれあいランド高郷の3つの保養施設については、申し上げましたように市有施設全体の利用料金の見直しを行った令和元年度において、利用料金の据置きとしたところであります。平成18年の合併以降、利用料金は変わっておりません。

一方で、近年、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、利用料金収入は減少する中、不安定な国際情勢に伴う電気、さらには燃料費の高騰など、施設の維持管理経費がかさみ、ご承知のように指定管理委託料は増加傾向にあります。

このような状況の中で、保養施設を取り巻く社会情勢は大きく変化していることから、委員おた

だしのとおり、総合的に検討する必要があるのではないかなと。費用対効果ではどうしようもない、市有施設であります。と同時に、2006年に5市町村が合併し、それぞれのふるさと創生等々で温泉掘削をしながらやってきた施設でもあるというようなことも含めて、これらも総合的に管理委託をしています。会社とも十分協議しながら、まさにペイしなくても、あるいはそれ以上に近づくくらい、やはりしっかりとした料金体系についても検討する時期には来ているのではないかなと思っております、社会経済情勢の中でしっかりと対応してまいりたいと思います。

実は、昨日、おととい、置賜南部と会津北部地域の米沢市、喜多方市、北塩原村の3市村の定期的な懇話会がありました。米沢市には市が管理する温泉施設はありません。民間施設だけです。助成しておられるのですかと聞いたら、助成もしておられないというようなことで、やはり低廉な料金で運営できるというようなことも話されていますので、様々な形でこの利用の仕方、市民の皆さんに利用していただく、どういう方法がよいのかも含めてトータル的に検討してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○五十嵐吉也委員長 遠藤吉正委員。

○遠藤吉正委員 やはり、保養施設については経営的な視点からやっていかないと、先ほど言いましたように、指定管理については民間による利活用といっても根本的に限界があると思うのですね。そういう意味では利用料金の見直しが必要だと思いますので、お願いします。

それと、今回、令和4年度の決算を見ますと、光熱水費を見ると、いいでのゆとふれあいランド高郷は120から140%増えているのですが、蔵の湯は少し減っているのですね。中身を見ますと、木質バイオマスボイラーですか、この導入によって、結果的にそれを売って、電源を売ってそこからということで、結果的に減っているのです、さらにこういったものを活用した上での施設管理も必要かと思うのですが、まずそこについてお伺いしたいと思います。

○五十嵐吉也委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） いいでのゆ、蔵の湯、ふれあいランド高郷の3つの保養施設については、先ほども申し上げましたけれども、オープンから相当年数が経過している状況にあります。施設の維持管理費の平準化とさらなる誘客を図り、利用者数を増やすことが課題であると考えております。

施設の維持管理経費につきましては、中期財政計画に計上し、計画的な改修を行うとともに、改修費がかさむ源泉ポンプの入替え、点検など、3つの施設が各年度に行う改修事業の平準化に引き続き取り組んでまいりたいと考えておりますけれども、先ほども申し上げましたさらなる誘客に向けて、魅力あるイベントや行ってみたいくなるような仕組みづくりを指定管理者と連携しながら企画PR等を行ってまいりたいと考えております。

委員ご指摘のとおり、バイオマスボイラーについては、今のところなかなか厳しい状況ではありますけれども、全国各地から非常に研修が多いというようなことで、恐らくあの規模のボイラーで

は全国で2番目ぐらいの先駆けた施設でもあります。一昨年の9月に、私ども、ゼロカーボンシティを宣言させていただきました。そういった意味で、様々な手法を凝らしながら経営の改善とかに結びついて、そしてまた行ってみたくなるような、行ってみたいような、そういった施設にしっかりとできるように指定管理者と連携を取りながら、十分な指定管理、そしてペイができて、市のほうに財政が戻ってくるような形で運営してまいりたいと思いますので、ご理解を賜りたいと思います。

○五十嵐吉也委員長 遠藤吉正委員。

○遠藤吉正委員 最後になりますけれども、施設の課題ということで、先ほども市長から答弁ありました。米沢市では民間しかないということですが、これについてはご承知のように蔵の湯は建設から約26年、それからいいでのゆが27年で、ふれあいランド高郷が29年、もう既に経過をしております。平成25年ですか、議会の市有温泉施設等に関する検討特別委員会のほうからいろいろ提言がありまして、もう10年たっておりますけれども、その中で、近年、隣の会津坂下町では廃止をした、会津美里町では民間に売却をしたということがあります。ほかの自治体でもそうかと思いますが、そういう意味では本市においても、やはり合併してからこういった温泉施設の在り方というのはいろいろ検討されているかと思うのですが、その内容も含めて、今後どう在るべきなのかということは、令和4年度の決算を含め、なおかつ、何度もお話ししておりますけれども、今後、さらなる原油価格、それから物価高騰、さらには人件費の高騰も含めて、なかなかこれが市の重荷になっている部分があるかと思うのです。そういう意味では、自主財源という意味で、確かに経営的にやっとうまくいけばよいのですが、なかなかそこが今、先ほど言いました老朽化も含めて難しい状況ですので、ここら辺は思い切った決断が求められていると思うのですが、最後にこの施設の在り方について、市長の考え方をお伺いしたいと思います。

○五十嵐吉也委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） 委員ご指摘のとおりであると思います。特に、3施設については、それぞれの思いがあって建設した合併前の施設であります。それぞれの地域の方々の思いもあると思います。そんな中で、他市町の例もお話し申し上げましたが、やはり抜本的に改革する、いわゆる検討する時期には来ているのではないかなと思っております。

その一つとして、バイオマスと先ほど申し上げましたけれども、ある意味では、道の駅そのものも含めた施設、蔵の湯などはそうでありますけれども、この間、私しばらくぶりにいいでのゆに入らせていただきましたら、何と熊が風呂に入りに来たということではないのでしょうかけれども、熊が露天風呂近くを通ったというようなことで、露天風呂には午後5時以降は入浴しないでくださいというような話もありました。

いずれにしても、冒頭申し上げましたけれども、思いがある施設でありますので、地域の

方々と十分相談しながら、当然議会の皆様方とも相談しながら、しっかりとこの施設が未来永劫にわたって保養施設として、あるいは民間移譲等も含めた抜本的な改革について積極的に進めてまいりたいと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

○五十嵐吉也委員長 他にご質疑ございませんか。

小島雄一委員。

○小島雄一委員 それでは、私のほうから畜産関連の2点について質疑をさせていただきます。

まず、1点はふくしま会津牛の利用実証補助金ということで資料をいただきまして審査を行いました。皆さんご存じのように、「もっと美味しい喜多方プロジェクト」の中の一つであるわけですので、これは十二村議員のほうからも質疑がありました。

それを踏まえまして、市長にお尋ねいたしますが、もっと美味しい喜多方プロジェクトは令和3年、4年、5年の3年間のプロジェクトとなっておりまして、1年目には講演会をしたり、あるいは参加する3店舗の補助金を出したりとかして、令和4年度におきましては、それが8店舗に増えて、利用実証のための補助金と、それから利用促進キャンペーンということで、牛肉の料理を食べてくださった方たちに100人を当選者として牛肉をプレゼントするという事業と、あとは利用者と生産者の交流ということで見学会もして、そこには11名参加したということで、1年目、2年目ということで、1年目の令和3年度においては618食かな、それが令和4年度になりまして1,125食ということで、非常に実績も伸びてまいりまして、それぞれの事業がうまくいったのだなと評価するところであります。

それで、3年目になりまして、さらにこういう内容を充実させていくのかなと思っておりまして、3年目の市の取組としては、利用客に対するキャンペーンということで、55万円だけの予算と。令和4年度の134万円何がしの予算からすると、実に4割、半分以上に下げたということで、令和4年の実績を見て、市としてはもう補助金は要らないと評価されたのか。それとも、何か考えをお変えになったのか。そう疑わざるを得ないような方向性で出ております。

まず、この点に関して、令和4年度の実績をどういうふうにまとめて令和5年度の方針をこういうふうに決めたのか、そこから教えてください。

○五十嵐吉也委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） ふくしま会津牛利用実証補助金につきましては、観光シーズンにふくしま会津牛を中心とする料理提供にチャレンジする意欲を引き出し、実証事業に参加する飲食店の取組のスタートアップを支援したものであります。

本事業に取り組んだ飲食店へのアンケート結果では、「新しいお客様の獲得やリピーターの増加など収益力の向上につながった」、「料理を食べた方からの評価がよかった」、「補助金がなくても会津牛の提供を継続したい」との回答が大半であったところであります。

このようなことから、令和5年度におきましては、実証事業補助金を廃止とし、飲食店利用促進を図るため、食べた方を対象に抽せんで会津牛が当たるキャンペーンを実施することとしたものがあります。

現在、7店舗がふくしま会津牛を中心とした料理を提供しているところであります。ご承知のように、予算的に申し上げますと半分以上になってしまったというふうなご指摘がありました。まさに、この会津牛をどういうふうにして消費していくのかということが大きな課題であると思いますので、令和4年度に実施したもののについて、令和5年度は廃止してしまいましたが、やはり食べた方のPRも必要ではないかというような形で方向性を変えてみたわけではありますが、これらの実績等も踏まえながら、今後会津牛の様々なPR、推進、そして畜産農家の皆さん方の対応に、何といいますか、様々対応できるようなその支援策というものも今後検討しなければならないと思っている次第であります。

○五十嵐吉也委員長 小島雄一委員。

○小島雄一委員 審議の中で、「補助金をいただかなくてもやれるという回答があったのでそうしたのだ」という課長からの答弁がありました。本当かなと思ひまして、実際に経営者の方にお伺いをいたしました。「我々は、市から補助を受けてやっている立場からすると、補助金要りますか、要りませんかと言われたら、いや補助金がなくとも頑張らざるを得ないとそれは答えざるを得ません」と。「でも、実際はやはり原価が高いので、そんなに利益率が上がるわけではないから、安定するまでは補助金が欲しいというのが本音です」と言っていました。そうだろうと思うのですね。

2年間やられた方たち、今3年目でやっておられる方たちもそうですが、7店舗、8店舗を、さらにこれを10店舗、20店舗と増やしていくためには、初めてやる店舗の人たちには、やはり2年か3年くらい補助してあげないと、名物というか料理としてその店に定着するためには、やはり二、三年かかるだろうということを考えれば、3年以上やれないというんだったら、新規の方たちが挑戦するときのためのシステムとしてこういうのがありますよとか、そういうふうにして、ぜひこの利用実証の補助金制度を残してほしいと思うのです。

8店舗、7店舗ぐらいで、ちょっと減ったらもう二、三店舗にまたなってしまうということにもなりますし、すぐ米沢市のような牛肉文化にまで引き上げろとは申しませんが、でも、年々少しずつ地元消費が増えていくということが、我々生産者にとっては非常に勇気づけになると申しますか、厳しい畜産情勢の中で、俺たちの作った牛肉が喜ばれて食べられているのだということが生産者を励ましますし、昨年度はみんな食べに行っておいしかった、いや、市もよいことをやってくれていたなと言っていた矢先に、たった3年目で、こういう予算措置をするのかということです。予算状況が厳しいことは十分に存じておりますし、ほかのプロジェクトも生産者のために様々やってくださっていますので、非難するというようなことはしたくはないと思うのですが、ただ、生産者の本音の状況で、たった二、三年でやめてしまうのかというふうな思いにもなりますので、新規参入

者のための補助金制度とか、そういうことも含めて、この利用実証補助金というのを何とか残していただきたいと、検討していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○五十嵐吉也委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） 補助金の継続についてご質疑いただきました。

まさに本音と建前のお話もありましたけれども、現実的に店舗が3倍も4倍もなったというわけではないわけでありますので、そういった意味では定着するまで、例えば、委員ご指摘の新規参入については支援があるよというふうな制度も検討すべきではないかなとも考えております。特に、会津牛については、2011年の3.11で大変な打撃を受けました。まだやはり風評被害が克服されない状況で、飼料の高騰だとか、取り巻く環境は大変厳しい状況になっておりますので、こういったことも含めて、国の復興支援関係も含めて、何かメニューがないかどうか、県・国と連携しながら対応、検討してまいりたいと思います。会津牛だけで特化することは難しいとは思いますが、東京の市場では当時の塩川牛で特Aのすばらしい賞をもらうようなすばらしい生産者も出てまいりましたし、その方々が安心して新規参入できる、若い方々も入って、そして畜産業が振興し、そこから排出されるものについてはバイオとか、これから出ると思うのですけれども、肥料とかに転換できるとか、そういったものも循環する農業の一助になるのではないかなと思いますので、これらの新規参入者等も含めた制度をどうだというようなお話もありましたけれども、検討してまいりたいと思います。

○五十嵐吉也委員長 小島雄一委員。

○小島雄一委員 ぜひ、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、もう一点お伺いいたします。

有機資源利活用促進緊急対策事業補助金ということで、補助金を交付された内容の報告をいただいて質疑をいたしました。堆肥散布機なりを生産者が導入されたということでありますので、それはそれで評価をいたしたいと思います。

ただ、堆肥の問題に関しては、以前から何度も議論しているところでございますが、やはり会津には畜産がまだ残っていると。そこから産出される堆肥を耕種農家と結びつきができれば、特に市がずっと強化してまいりましたアスパラ、キュウリ、トマト、またミニトマトですね、こういうのに対して、有機質肥料の代表であるこの堆肥を施用する方法ということで、非常に喜多方市の特徴になるのではないかなと思います。

また、喜多方市は、有機栽培に関しては、県内随一の意欲を持っている生産者が多くいらっしゃいます。ハウスの中に堆肥をやるには、機械で振ろうと思ったら生の堆肥では難しいです。なので、やはりこの堆肥散布機の補助のために補助金を出すというのも、それはそれで悪くないかもしれないけれども、ぜひペレット化をしていただければハウスの中に振るのも簡単ですし、アスパラ圃場

に振るのもブロードキャスターでできるようになりますので、これが、ここのハードルを乗り越えたら、うまくこの喜多方市に展開するのではないかと考えております。

ですから、一台一台の堆肥散布機に補助金を出すよりも、これをもっと有効活用して、ペレット化施設というものをお考えにならないのかどうか、この補助金の在り方についてお伺いいたします。

○五十嵐吉也委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） 審査をいただいた中で議論があったかと思いますが、堆肥のペレット化につきましては、専用の散布機が不要であり、軽量化が図られるなど、家畜ふん堆肥の利用拡大を図る上で有効な手法であると思いますが、新たな設備投資が生じることから、市内及び県内において堆肥のペレット化に取り組んでいる事業者は現時点において存在しない状況となっております。

こうした状況を踏まえ、市といたしましては、まずは畜産農家や生産者団体におきまして、ペレット堆肥施設整備の必要性、採算性等も含めて、家畜ふん堆肥の利活用の在り方についてご検討いただきたいと思います。

その上で、取りまとめられた内容の具現化に向けて検討してまいりたいと考えておりますけれども、畜産農家はそう多くございませんので、ある意味では、有機肥料の話も出ましたけれども、まさに猪苗代町とか、町営で実施しているところも様々あるわけでありまして、ＪＡとか様々な団体、畜産団体で作ってやるというか、自らできるというふうな、そういう機運の醸成も私は必要ではないかなと思っております。そういう意味では喜多方市が先頭に立つのも必要ではないかなと思っておりますけれども、ＪＡ関係等も含めて、取りまとめられた点について、各団体と協議しながら具現化に向けて検討してまいりたいと思います。

○五十嵐吉也委員長 小島雄一委員。

○小島雄一委員 では、これで最後にいたしますが、国はみどりの戦略システムということで、様々な補助金とか、いろいろな事業を展開しております。ぜひ、このあたりから導入できるものがないかどうかの検討をお願いしたいとともに、市長のご発言のように、畜産農家は今風前のともしびです。ただ、そういう数が減っていく風前のともしびの中でも、30代、40代で規模拡大をしてやろうという農家も何名か出てまいりました。毎月集まって、飲み会をしながらではありますけれども、畜産談義が非常に盛り上がります。こういう人たちが元気でいて、その悩みの一つがこの畜産堆肥の問題でありますので、堆肥をたくさん入れたアスパラはおいしいので、ぜひ、この突破口を何とか開けるように頑張っていただきたいと要望しておきます。

終わります。